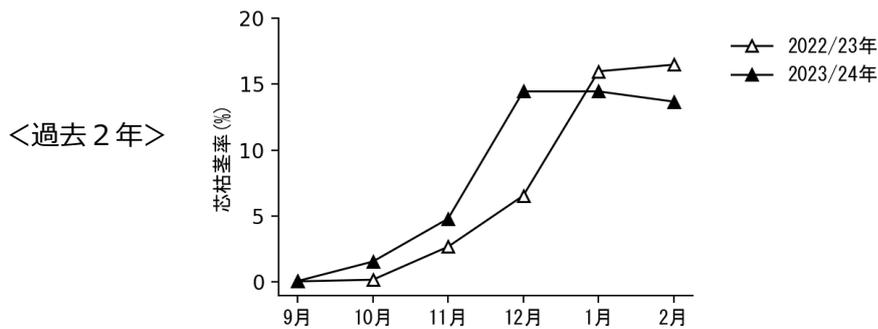
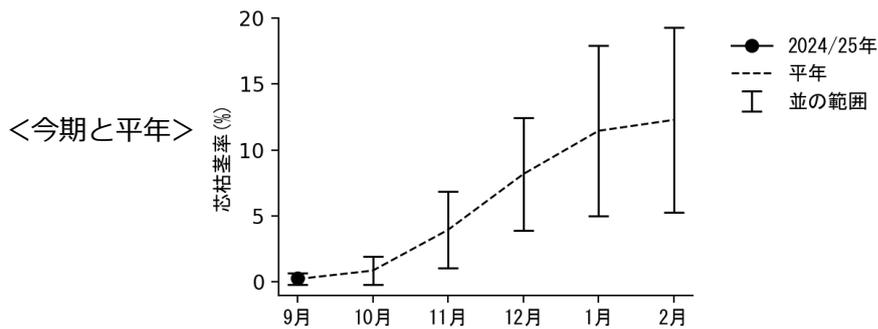


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	9 月からの増減傾向	→		
		10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

芯枯莖率の推移 (夏植え)



・発生ほ場率35.0% (平年：17.8%)

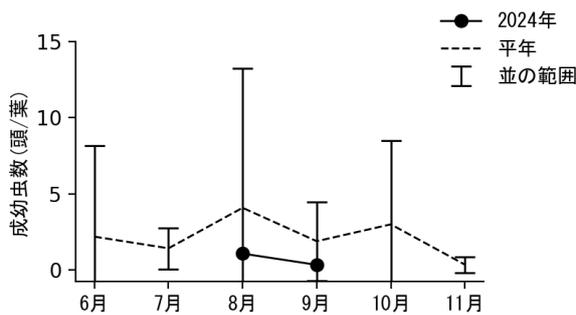
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・莖葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

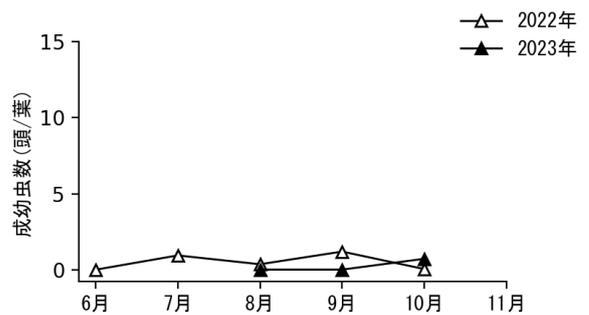
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	↗	
		10 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

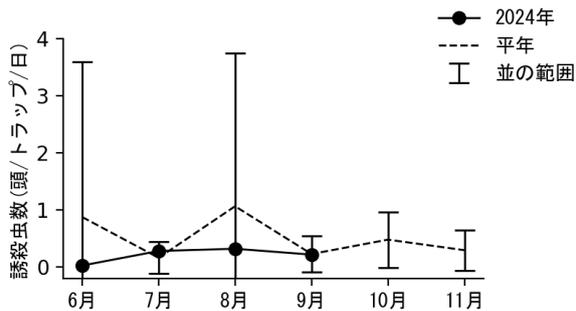
葉当たり成幼虫数の推移 (今期と平年)



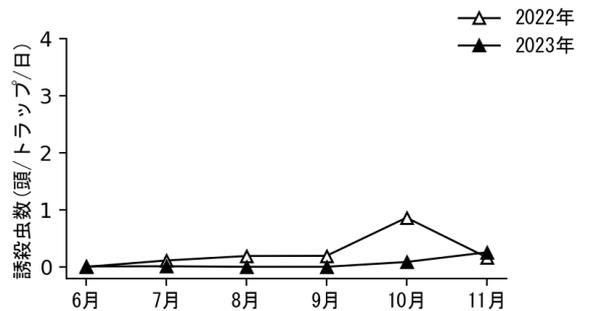
葉当たり成幼虫数の推移 (過去 2 年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (今期と平年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (過去 2 年)



・発生施設率80.0% (平年 : 62.0%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

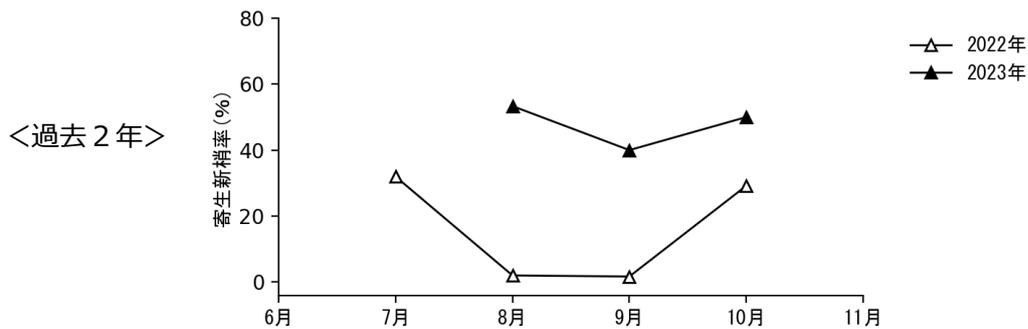
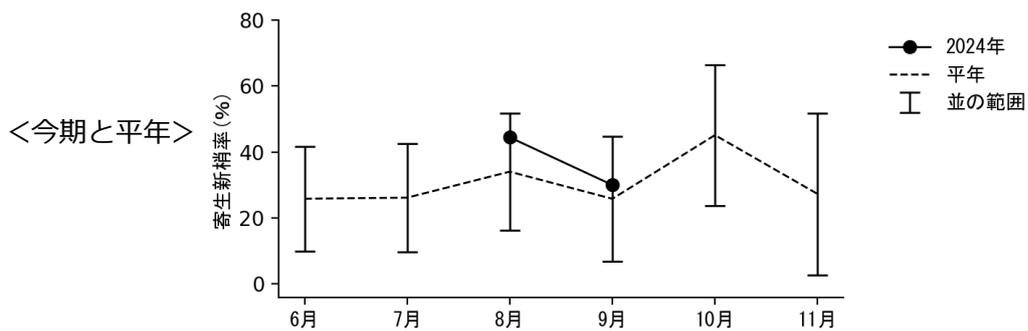


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並		
予報	9 月からの増減傾向	↗		
	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 51.6%)

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

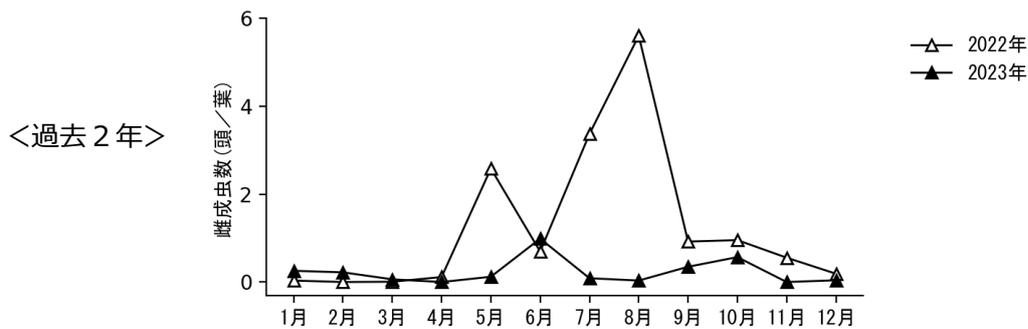
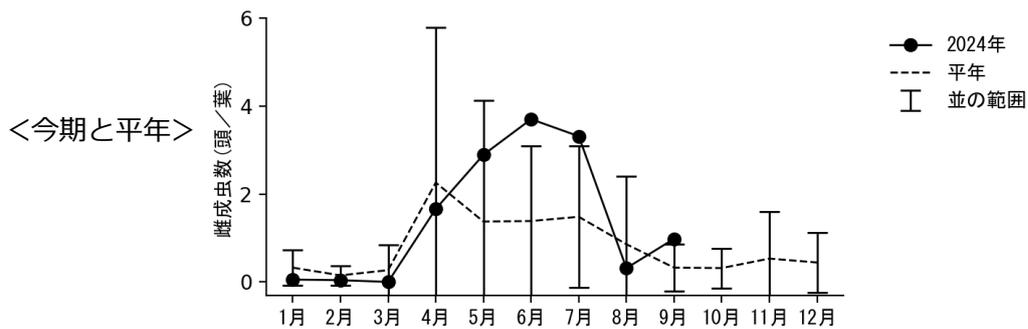


被害葉

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類			
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	9 月からの増減傾向	→		
	10 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率60.0% (平年：23.5%)

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



マンゴーツメハダニ